

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
東京文化財研究所75年史編纂事業（情04）	企画情報部	87
『東京文化財研究所年報』（*情05）	企画情報部	88
『東京文化財研究所概要』（*情05）	企画情報部	88
『東文研ニュース』（*情05）	企画情報部	88
平成18年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（美04）	企画情報部	88
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	89
「保存科学」47号の出版（保04）	保存修復科学センター	90
第30回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（無05）	無形文化遺産部	91
『美術研究作品資料 第5冊 黒田清輝《湖畔》』（*美01）	企画情報部	92
『国宝 彦根屏風』（*情01）	企画情報部	93
『薬師寺所蔵 国宝 麻布著色吉祥天像』（*情01）	企画情報部	93
『日韓共同研究報告書2007』（*修01）	保存修復科学センター	94
『文化財の防災計画に関する研究 第3回研究会—震災から美術工芸品をまもる—』（*修02）	保存修復科学センター	95
『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2007年度』（*修03）	保存修復科学センター	95
<i>Evaluation Seminar, 2007 -International Course on the Conservation of Japanese Lacquer-</i> （*修05）	保存修復科学センター	95
<i>Textbook “Japanese Lacquer -Basics-”</i> （研修用テキスト『漆—基礎編—』）（*修05）	保存修復科学センター	97
『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成19年度（絵画／工芸品）』（*修04）	保存修復科学センター	97
『近代化遺産の修復のための諸問題』（*修06）	保存修復科学センター	98
『鉄道遺産の活用』（*修06）	保存修復科学センター	98
『保存処置後のモニタリング』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	99
『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究—平成19年度成果報告書』（*セ02）	文化遺産国際協力センター	100
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2007』（*セ04）	文化遺産国際協力センター	100
『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2006年度（第6・7次ミッション）—』（*セ05）	文化遺産国際協力センター	101
『アフガニスタン・カブール市南部の文化的記念物および考古遺跡の調査』（*セ05）	文化遺産国際協力センター	102

<i>Documenting the Cultural Heritage of Kabul. Survey Project in the Kabul Region, Afghanistan funded by UNESCO in 2006 Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan Supplement 2</i> (*セ05)	文化遺産国際協力センター	102
『バーミヤーン仏教石窟調査概報—2006年度—』(*セ05)	文化遺産国際協力センター	103
『バーミヤーン遺跡保存のための環境調査報告—2005～2006年—』(*セ05)	文化遺産国際協力センター	104

- *注 ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05）の一環として実施した。
- ・『美術研究作品資料 第5冊 黒田清輝《湖畔》』は、東アジアの美術に関する資料学的研究（①美01）の一環として実施した。
 - ・『国宝 彦根屏風』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究（①情01）の一環として実施した。
 - ・『薬師寺所蔵 国宝 麻布著色吉祥天像』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究（①情01）の一環として実施した。
 - ・『日韓共同研究報告書2007』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①修01）の一環として実施した。
 - ・『文化財の防災計画に関する研究 第3回研究会—震災から美術工芸品をまもる—』は、文化財の防災計画に関する調査研究（①修02）の一環として実施した。
 - ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2007年度』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①修03）の一環として実施した。
 - ・*Evaluation Seminar, 2007 -International Course on the Conservation of Japanese Lacquer-*は、国際研修 漆の保存と修復（⑤修05）の一環として実施した。
 - ・*Textbook "Japanese Lacquer -Basics-"*（研修用テキスト 漆—基礎編—）は、国際研修 漆の保存と修復（⑤修05）の一環として実施した。
 - ・『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成19年度（絵画／工芸品）』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②修04）の一環として実施した。
 - ・『近代化遺産の修復のための諸問題』は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
 - ・『鉄道遺産の活用』は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
 - ・『保存処置後のモニタリング』は、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究—平成19年度成果報告書』は、アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究（②セ02）の一環として実施した。
 - ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2007』は、敦煌壁画の保護に関する共同研究（②セ04）の一環として実施した。
 - ・『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2006年度（第6・7次ミッション）—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『アフガニスタン・カーブル市南部の文化的記念物および考古遺跡の調査』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・*Documenting the Cultural Heritage of Kabul. Survey Project in the Kabul Region, Afghanistan funded by UNESCO in 2006 Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan Supplement 2* は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『バーミヤーン遺跡保存のための環境調査報告—2005～2006年—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。

東京文化財研究所75年史編纂事業 (⑥情04-07-2/4)

『東京文化財研究所七十五年史 資料編』を刊行し、本編を平成21年度に刊行することをめざして沿革編および調査研究編の原稿作成、校正を進めた。また、その一部を研究等に資するデジタル・コンテンツとして公開に向けて編集し、ホームページ上での公開に向けて加工を進めた。

東京文化財研究所七十五年のあゆみ

東京文化財研究所 略年表

事業編

科学研究費研究課題一覧

受託研究一覧

特別研究一覧

アジア文化財保存セミナー

アジア文化財保存修復研究会・国際文化財保存修復研究会

在外日本古美術品保存修復協力事業

開所記念展覧会

黒田清輝展巡回記録

美術部・情報資料部夏期学術講座

近代の文化遺産の保存修復に関する研究会

芸能部公開学術講座

美術部公開学術講座・オープンレクチャー

文化財の保存及び修復に関する国際研究集会

能楽技法講座

文化財保存修復研究協議会

民俗芸能研究協議会

漆の保存修復国際研修

紙の保存修復国際研修

資料保存地域研修

連携大学院教育

博物館学実習

海外学術調査員および研究者のための保存修復講座

保存担当学芸員研修

資料編

開設期の公文書

東京文化財研究所所蔵作品一覧

戦前期撮影調査票一覧

東京文化財研究所所蔵 拓本総目録

東京文化財研究所所蔵 龍門石窟造像銘記拓本目録

和田新調査撮影記録

尾高鮮之助調査撮影記録

矢代幸雄収集西洋美術関係図版目録

美術懇話会主催展観及び講話等

美術懇話会会員名簿

東洋美術国際研究会会員名簿



⑥刊行物 Area13,14

『美術研究』総目次
『美術研究』掲載図版総目次
『保存科学』総目次
『芸能の科学』総目次
東京文化財研究所所蔵 “Bulletin of Eastern Art” 総目次
東京文化財研究所所蔵刊行物一覧
歴代名誉研究員一覧
職員名簿
東京文化財研究所所蔵資料統計
閲覧者数統計
機構の変遷
定員構成の変遷
予算
土地建物の変遷
関係法規（抜粋）

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③情05）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05）の一環として実施した。詳細は、63頁を参照。

平成18年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（⑥美04-07-2/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成18年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成18年版は、下記のような構成をとり、B5版396ページとなった。

2005（平成17）年美術界年史

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）
美術文献目録
定期刊行物所載文献
美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）
物故者

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊



行。本年度は以下の通り392号、393号、394号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』392号（19年度第1冊／2007年9月刊行）

- （論 文） 皿井舞 「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（上）」
- （論 文） 江村知子 「根生いの分限、絵描きへの道
—尾形光琳を取り巻く環境と作品制作について—」
- （論 文） 塩谷純 「川端玉章の研究（一）」
- （論 文） 蔵屋美香 「絵画の下半身
—一八九〇年～一九四五年の裸体画問題—」
- （展覧会評） 浦上玉堂展（戸田禎佑）

『美術研究』393号（19年度第2冊／2008年1月刊行）

- （論 文） 勝木言一郎 「古代の日本における阿弥陀浄土図の受容とその位相
—法隆寺金堂壁画第六号壁と当麻曼荼羅をめぐる受容の本質とその言説の形成を中心に—」
- （論 文） 皿井舞 「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（中）」
- （論 文） 綿田稔 「自牧宗湛（上）」
- （展覧会評） 田中淳 「昭和前期をめぐる三人の画家たち—小島善三郎・鶴岡政男・鬚光—」
- （書 評） 根立研介 『日本中世の仏師と社会—運慶と慶派・七条仏師を中心に—』（津田徹英）

『美術研究』394号（19年度第3冊／2008年3月刊行）

- （論 文） 綿田稔 「自牧宗湛（中）」
- （論 文） 相澤正彦 「土佐光吉と大画面絵画」
- （論 文） 張辰城（石附啓子訳） 「朝鮮後期古董書画収集熱の性格
—金弘道の《布衣風流図》と《土人肖像》に対する検討—」
- （研究資料） 江村知子 「土佐光吉筆『曾我物語図屏風』について」

『無形文化遺産研究報告』（⑥無04-07-2/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第2号

- 宮田繁幸 「無形文化遺産保護における国際的枠組み形成2」
- 森下愛子 「『土型』の保存とその公開について
—伝統的陶芸技術の公開と普及の方法—」
- 深津（福岡）裕子 「染織工芸技術の変遷
—葛布の製作技法と用途を事例として—」
- 飯島満 「国立音楽大学付属図書館寄贈 竹内道敬旧蔵音盤目録（2）」
- 埋忠美沙
「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵 歌舞伎舞台写真目録—昭和—」
- 高桑いづみ
「世阿弥自筆本の節付けを考える—『難波梅』から『盛久』・『江口』まで—」
- 服部比呂美 「庄内地方における雛祭りの飾り物—雛菓子と押絵雛菓子」
- 大島曉雄 「無形民俗文化財の『変化』を考える—特に文化財指定との関連で—」



⑥刊行物 Area14

鎌倉恵子「〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽の裏方

—囃子の世界を中心に—吉田篁助師 藤舎秀左久師 望月大明吉師に聞く」

『無形民俗文化財研究協議会報告書』（⑥無04-07-2/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催する。その第2回に当たる本年度は「市町村合併と無形民俗文化財の保護」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

テーマ「市町村合併と無形民俗文化財の保護」

I. 鈴木規夫「序にかえて」

II. 俵木悟「趣旨説明」

III. 報告

*報告1 木村弘樹「市町村合併による民俗芸能の保護と継承

—相模原市内の一人立ち三匹獅子舞を中心に—」

*報告2 千田和文「市町村合併と保存会活動—盛岡市の事例を中心に—」

*報告3 寺田昭士「町村合併と無形民俗文化財の保存と活用

—とくに学校教育において—」

*報告4 戸田 剛「市町村合併と民俗芸能の伝承—

『合併から政令市へ』浜松市を例に—」

*報告5 須田弘宗「市町村合併が綾子舞の保存振興に与えた影響」

IV. 総合討議

V. 参考資料

VI. アンケート集計結果

VII. あとがき



「保存科学」47号の出版（⑥保04-07-2/5）

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『保存科学』第47号

小椋大輔、犬塚将英、石崎武志、銚井修一、北原博幸、多羅間次郎

「高松塚古墳石室解体時の壁画保存のための温湿度環境の制御」

Magdi KHALIL and Takeshi ISHIZAKI, "Moisture Characteristic Curves of Tuff Breccia Stone"

木川りか、間渕創、高妻洋成、降幡順子、肥塚隆保「高松塚古墳発掘・石室解体作業に伴う取合部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策：DDACの検討と施工」

早川泰弘「蛍光X線分析による国宝吉祥天像の彩色材料調査」

北野信彦、小檜山一良、竜子正彦、高妻洋成、宮腰哲雄

「桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査」



- 北野信彦、狭川真一、窪寺茂「元興寺五重小塔の外観塗装材料に関する調査」
 犬塚将英、龍泉寺由佳、石崎武志「石水博物館千歳文庫内の温湿度解析」
 谷口陽子、ジョイ マズレック「パーミヤーン仏教壁画の材質分析 (3) —ガスクロマトグラフィー／質量分析法を使用した有機物の分析：B(d)窟—」
 高林弘実、小瀬戸恵美、于宗仁、范宇権「敦煌莫高窟第285窟壁画に使用された彩色材料の非接触分析」
 宇野朋子、森井順之、薛平、張国彬、侯文芳
 「敦煌莫高窟第53窟の窟内環境—温湿度実測調査と気流解析—」
 朽津信明「カンボジア・タ・ネイ遺跡における蘚苔類の繁茂と砂岩の風化」
 木川りか、杉山純多、高鳥浩介、間渕創、佐野千絵、三浦定俊
 「高松塚古墳発掘・解体作業に伴う生物調査の概要について」
 木川りか、間渕創、佐野千絵、三浦定俊「キトラ古墳の微生物等の状況報告(2007)」
 佐野千絵、犬塚将英、間渕創、木川りか、吉田直人、森井順之、加藤雅人、降幡順子、石崎武志、三浦定俊「キトラ古墳保護覆屋内の環境について (3) —カビ点検報告記録の解析—」
 犬塚将英「ガス電子増幅フォイルを用いた文化財のX線透過撮影のための検出器の開発Ⅱ」
 松島朝秀、三浦定俊「文化財の透過X線撮影における蛍光増感スクリーンの特性」
 吉田直人
 「ファイバー送受光型分光光度計による平面文化財資料の反射スペクトル測定における誤差に関する考察」
 間渕創、佐野千絵「コンクリート壁面における付着真菌の累積挙動」
 犬塚将英、新田建史、石崎武志「静岡県立美術館における温熱環境の測定Ⅱ」
 吉田直人、佐野千絵「文化財保存施設におけるジクロロボス蒸散殺虫剤の使用について」
 鈴木雅文、山路康弘、楠京子、森井順之、川野邊渉「重要文化財八窓庵中柱の修復」
 初井基充、谷口陽子、大竹秀実
 「パーミヤーン仏教壁画の保存修復 (3) —I 窟およびN(a)窟における保存修復」
 豊島久乃、清水真一、青木繁夫、田代亜紀子
 「我が国の文化遺産国際協力事業の動向と課題—財源別に整理した事業実績の集計結果より—」
 吉田直人、佐野千絵、石崎武志「展示公開施設の館内環境調査報告—平成18年度—」
 吉田直人、佐野千絵、石崎武志、三浦定俊「25年目を迎える保存担当学芸員研修」

第30回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (⑥無05-07-1/1)

2007年2月14日～16日に当研究所セミナー室で開催したシンポジウムの各発表及び討論をまとめ、日本語版を刊行した。なお英語版はホームページ上で公開する。

「第30回文化財の保存修復に関する国際研究集会 無形文化遺産の保護 —国際的協力と日本の役割—」

鈴木規夫「刊行に当たって」

基調講演

1. 宮田繁幸 (東京文化財研究所)

「日本の無形文化遺産保護と無形文化遺産保護条約」

2. 愛川紀子 (ユネスコ)「ユネスコ無形文化遺産保護条約

—その採択 (2003) から第1回政府間委員会開催 (2006.11) まで」

セッションⅠ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅰ

白庚勝 (中国・中国民間文芸家協会)「中国の無形文化遺産保護の国際的重要性」



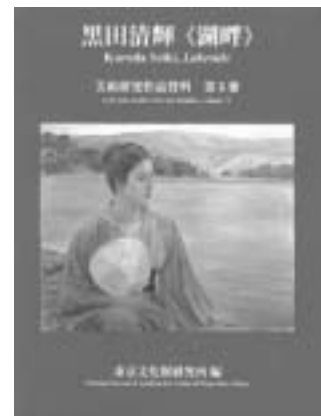
⑥刊行物 Area15,16

- 飯島満（東京文化財研究所）「日本の無形文化遺産—古典芸能の伝承と将来」
セッションⅡ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅱ
イム・ドンヒ（韓国・東国大学）「無形文化遺産の保護と人間文化財：経験と挑戦」
佐々木正直（文化庁伝統文化課）
「日本における『無形文化財』の保護の現状と課題—工芸技術を中心として—」
ガウラ・マンチャチャリタディプラ（インドネシア・文化専門家）
「インドネシアの無形文化遺産の保護：システム、計画、活動と問題」
セッションⅢ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅲ
菊池健策（文化庁伝統文化課）「日本の無形民俗文化財の保護」
グウェン・キム・ズン（ベトナム・文化情報省文化遺産部）
「近年のベトナムにおける無形文化遺産の保護とコミュニティの関与」
セッションⅣ：国際的協力における日本の経験
福岡正太（国立民族学博物館）「伝統芸能の保護と映像記録の役割」
大貫美佐子（財団法人ユネスコ・アジア文化センター）
「無形文化遺産とコミュニティのキャパシティビルディング」
俵木悟（東京文化財研究所）「東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み」
討論
シンポジウムプログラム
発表者一覧
組織委員会メンバー
無形文化遺産条約全文

『美術研究作品資料 第5冊 黒田清輝《湖畔》』（①美01の一環として実施）

企画情報部のプロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の報告書。今年度は黒田清輝《湖畔》（東京国立博物館蔵）の調査研究をまとめ、『美術研究作品資料』第5冊とした。版型はA4判変形。《湖畔》図版14頁。テキスト92頁。その構成は以下の通り。

- 《湖畔》図版 城野誠治、鳥光美佳子撮影・画像形成（紫外線蛍光画像を除く）
全図
部分図（原寸大） 顔・湖面と山並み・団扇と手・左手
額装 表・裏面
斜光線画像・側光線画像・紫外線蛍光画像・反射近赤外線画像
芦ノ湖湖面実写
展示風景
テキスト



- 田中淳「序論—黒田清輝《湖畔》を語るために」
荒屋鋪透「1900年パリ万国博覧会と黒田清輝の《湖畔》」
山梨絵美子「黒田清輝《湖畔》のモデルをめぐる」
鈴木康弘「《湖畔》誕生の頃の箱根」
植野健造「黒田清輝《湖畔》の波紋」
金子一夫「鑑賞教材として採用される黒田清輝作品の変遷—《鉄砲百合》から《読書》、さらに《湖畔》へ」

渡邊一郎「《湖畔》診断書」
 塩谷純編「《湖畔》をめぐる言葉とイメージ」
 「黒田清輝《湖畔》関連年表」
 英文レジメ

『国宝 彦根屏風』(①情01の一環として実施)

近世風俗画の優品「彦根屏風」が修理されるのに先立ち、平成18年度から
 ャ年で行った彦根城博物館との共同研究の報告書を以下の内容で刊行した
 (B4版、本文69ページ、カラー図版〔折込図版を含む〕117ページ)。



石丸正運「ごあいさつ」
 鈴木規夫「刊行にあたって」

図版

全図 カラー画像 (修理後)
 部分 カラー画像 (修理後)
 全図 カラー画像
 部分 カラー画像
 全図 近赤外線画像
 部分 近赤外線画像
 画中に記された色の指示書き (近赤外線画像・カラー画像)
 部分 蛍光画像
 蛍光X線分析測定ポイント カラー画像

本文

高木文恵「彦根屏風—伝来と研究史—」
 カラー挿図
 城野誠治「光学的手法による国宝・彦根屏風の調査」
 カラー挿図
 早川泰弘「彦根屏風の彩色材料調査」
 蛍光X線分析測定ポイント対応図
 江村知子「彦根屏風の表現について」
 カラー挿図
 竹上幸宏「彦根屏風修理報告」
 カラー挿図

文献目録

英文要旨

『薬師寺所蔵 国宝 麻布著色吉祥天像』(①情01の一環として実施)

奈良時代の着彩画の数少ない作例である薬師寺所蔵「麻布著色吉祥天像」の調査を奈良国立博物館と共同
 で行い、その報告書を以下の内容で刊行した (B4版、本文23ページ、カラー図版〔折込図版を含む〕81ペー
 ジ)。

⑥刊行物 Area16

安田暎胤「刊行にあたって」
湯山賢一「刊行にあたって」
鈴木規夫「刊行にあたって」

図版

全図 カラー画像
全図 蛍光画像
全図 近赤外線画像
全図 X線透過画像
上半身部分図 カラー画像・近赤外線画像・X線透過画像
原寸四分図 カラー画像・近赤外線画像・X線透過画像
部分図 カラー画像・蛍光画像・近赤外線画像・X線透過画像
部分拡大図 カラー画像・近赤外線画像
部分拡大図（52図～91図）の対応図
蛍光X線分析測定ポイント対応図
吉祥天像のX線透過画像について
旧押縁・旧表装裂・旧裏打紙・旧下地・旧木枠の写真
吉祥天像模写



本文

谷口耕生「国宝 麻布著色吉祥天像」
梶谷亮治「国宝 麻布著色吉祥天像の彩色技法」
城野誠治「光学的手法による国宝吉祥天像の調査」
早川泰弘「蛍光X線分析による国宝吉祥天像の彩色材料調査」
蛍光X線分析測定結果表
参考文献

TANIGUCHI Kosei, National Treasure: Painting of *Kichijōten* on Hemp Cloth
KAJITANI Ryoji, National Treasure: Techniques of Coloring of *Kichijōten* on Hemp Cloth
SHIRONO Seiji, Optical Analysis of *Kichijōten*, a National Treasure
HAYAKAWA Yasuhiro, Analysis of the Painting Materials Used in *Kichijōten*, a National Treasure

『日韓共同研究報告書2007』（①修01の一環として実施）

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書。大韓民国文化財庁・国立文化財研究所との共同刊行。

Hong Jong-ouk, The Characteristics of Ancient Pigments used to Cultural Heritage in Korea

朽津信明「文化財石材の硬さに関する研究」
全晒圭、韓旼洙、嚴斗成
「泰安磨崖三尊仏の保存科学的毀損度の診断と保存環境の分析」
李讚熙、李鮮明、金知英
「韓国瑞山磨崖三尊仏像の毀損度精密診断と微気象環境の分析」
森井順之「磨崖仏の凍結防止策の検討」



早川典子、川野邊渉「白杵磨崖仏における表面処置について」
李柱玩、咸喆熙、金思憲「石造文化財に生じた汚染物質の除去の事例」

『文化財の防災計画に関する研究 第3回研究会—震災から美術工芸品をまもる—』（①修02の一環として実施）

図版

奥村弘「大規模自然災害と地域歴史遺産保全活用

—阪神淡路大震災から現在までの歩み—

宇田川滋正「被災文化財の保存修復—歴史資料を例に—」

村田忠繁「災害における文化財保存修復学会の対応と防災への取り組み」

本田光子「九州国立博物館の震災対策—博物館の危機管理—」

<質疑応答・総合討議>



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2007年度』（①修03の一環として実施）

刊行にあたって

調査研究の経過報告

建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験

紙文化財を保存修復する上での基礎的知見の収集

「東京文化財研究所 保存修復資料室所蔵 資料目録（その1）」の作成について

研究会の報告

研究会プログラム

講演

北野信彦「出土資料である漆芸品に用いられた金属の劣化と保存処理」

高橋隆博「漆器と金属—技法と歴史—」

北村昭斎「漆芸品の加飾材料としての金属に関する事例」

成瀬正和「漆芸品に用いられた金属材料」

佐野千絵「漆工芸品に用いられる金属の劣化について」

質疑応答

アンケート結果

付録— 2007年度現在の「東京文化財研究所 保存修復資料室所蔵 資料目録」



Evaluation Seminar, 2007 -International Course on the Conservation of Japanese Lacquer-（⑤修05の一環として実施）

国際研修「漆の保存と修復」評価セミナー報告書

On the Publication of the Report on the Evaluation Seminar, 2007

（刊行にあたって）

List of Past Participants 1999-2005（「漆の保存と修復」過去参加者リスト）

Responses to the Evaluation Questionnaire by ICCROM (アンケート)
Schedule (セミナー日程)

List of Participants (参加者リスト)

【Lectures (講義)】

KAWANOBE Wataru, Urushi as Restoration Material

(川野邊渉「文化財修復材料としての漆」)

【Presentations (発表)】

Suzanna SHAW, A Feeling for URUSHI: Experiences in a Lacquer
Workshop and Conservation Studio (スザンナ・ショー「漆への思い—漆
芸工房ならびに修復工房における経験」)

Chenkyo Tshering DORJI, Need of Urushi Plantation, Scientific Method
of Liquid Collection and Storage System including Conservation and
Restoration of Lacquer Objects in Bhutan

(チェンキョ・ツェリン・ドルジ「ブータンの漆器にとって必要とされるウルシノキ栽培、樹液採取の科学的
方法論と保管システムならびに保存と修復」)

Balazs LENCZ, Preliminary Research for the Conservation of a Japanese Armor

(バラツ・レンツ「日本の甲冑の修復に関する事前調査」)

Francesco CIVITA, New Horizons for Cooperation in the Urushi Approach

(フランチェスコ・チヴィタ「漆へのアプローチにおける協力への新たな地平線」)

Mitra ETEZADI, Comparison of Urushi Lacquer with Iranian Lacquer

(ミトラ・エテザディ「漆器とイランのラッカー製品の比較」)

Margarita KIRCHNER, Urushi Works in Spanish Public Collections

(マルガリータ・キルヘナー「スペインで公開されているコレクションにおける漆器」)

Yahui LIU ZHOU, Behaving Badly? The Conservation of Lacquer Instruments in the Music
Museum of Barcelona (ヤフイ・リウ・ゾウ「適切な決定だったのだろうか? The Music Museum of
Barcelona における漆塗り楽器の保存と修復」)

Somtawin NILVILAI, An Approach to the Restoration of Lacquer Work

(ソムタウィン・ニルヴィライ「漆器の修復へのアプローチ」)

Jürgen HUBER, The Dubois Commode and Its Japanese Urushi Lacquer Decoration

(ユルゲン・フバー「Dubois 飾棚に見る日本の漆芸装飾」)

Julia HUTT, A Curator's Viewpoint of the Mazarin Chest Project: A New Interpretation of Its
Decoration

(ジュリア・ハット「学芸員から見たマゼランチェスト・プロジェクト: その装飾に関する新たな解釈」)

Melissa H. CARR, Real Benefit: Opportunities and Results from the International Course on
Conservation of Japanese Lacquer

(メリッサ・カー「実質的メリット—第3回国際研修「漆の保存と修復」2003が提供した機会と結果につ
いて」)

Brenda KENEGHAN, A Scientific Investigation into the Conservation of Urushi Objects

(ブレンダ・ケネガン「漆器の修復に向けた科学的調査」)

Overall Discussion (総合討論会)



Textbook “Japanese Lacquer -Basics-” (⑤修05の一環として実施)

Introduction

1. On the Concept of the Restoration and Reproduction of Cultural Properties (heritage urushi ware) in Japan
2. The urushi production technology of the Edo Period, the foundation of Japanese traditional craft
 - (1) Introduction
 - (2) Urushi producing areas in various parts of Japan
 - (3) Basic urushi production technique
 - (4) Era-specific characteristics of the materials and techniques used in urushi
 - (5) Urushi as a window on Japan, Europe, and Southeast Asia: “Lac” and “japan”
3. Production of the urushi coating
 - (1) The Japanese urushi plant
 - (2) Where the urushi sap is
 - (3) Harvesting the urushi sap (urushi sap-tapping)
 - (4) Purification of urushi coating
 - (5) The color of urushi coatings
4. Urushi from a Chemical Point of View
 - (1) Urushi Sap
 - (2) What Does It Mean When Urushi “Dries”
 - (3) Urushi Coating Film and Its Deterioration
 - (4) Analysis of Urushi
5. Technical Standard for Production of urushi ware
 - (1) Sample Boards for Techniques of Urushi
 - (2) Illustrations of Techniques of Urushi
6. The conservation and restoration of heritage urushi ware
 - (1) Hereditary specimens existing to the present day
 - (2) Archaeological specimens
7. Handling of Objects and Packing
8. Glossary of Urushi Terms



『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成19年度（絵画／工芸品）』（②修04の一環として実施）

平成19年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告。

報告書の刊行にあたって

在外日本古美術品の事業報告

保存修復協力事業／所蔵博物館一覧／現地作品調査

〔絵画篇〕

⑥刊行物 Area16

カラー口絵

源平合戦図屏風

開地久治「修理報告」、津田徹英「作品解説」

洛中洛外図屏風

山口聰太郎「修理報告」、江村知子「作品解説」

保元物語図屏風

君嶋隆幸「修理報告」、綿田稔「作品解説」

明皇蝶幸図屏風

三神和美、大八木威久、水野匡人「修理報告」、綿田稔「作品解説」

見立反魂香図

小島知英「修理報告」、塩谷純「作品解説」

〔工芸品篇〕

カラー口絵

「山水人物蒔絵筆筒」 松本達弥

「花樹鳥獣蒔絵螺鈿洋櫃」 松本達弥

「雷文鱗文螺鈿提子」 北村繁

ワークショップ及び講演会



『近代化遺産の修復のための諸問題』（①修06の一環として実施）

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

はじめに

刊行にあたって

川野邊渉「近代化遺産の修復における問題点」

松本純子「『文化財』としての近代文化遺産の保存修理」

長島宏行「文化財としての航空機修復」

岸由一郎「鉄道文化財の保存修復に関する問題点

～車両・建造物をめぐる『情報』の保存を中心に～」

中山俊介「日本における鋼船の保存についての問題点」

歴史資料部門 指定・登録物件目録

編集後記



『鉄道遺産の活用』（①修06の一環として実施）

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

はじめに

刊行にあたって

Part 1. 鉄道文化財の利活用

中山俊介（東京文化財研究所）「鉄道文化財の利活用について」

アルフレッド・ゴットヴァルド（ドイツ技術博物館）



「博物館所蔵の鉄道車両、客車、貨車の保存について」

ロルフ・ホーマン（ドイツ・産業考古学事務所）

「ヨーロッパにおける歴史的鉄道車両の収集、保存、管理に関する問題」

ヨアヒム・プロイニンガー（ドイツ鉄道博物館）

「大量のコレクションの扱いについての新しいアプローチ ドイツ鉄道博物館と鉄道車両」

森本寿（特定非営利活動法人加悦鐵道保存会）「民間ボランティアによる鉄道保存活動について」

松本茂樹（西日本旅客鉄道株式会社）「JR西日本における鉄道文化保存活動について」

質疑応答より

Part 2. 路面電車の運用と文化財の保存

【研究会講演録】

中山俊介（東京文化財研究所）「路面電車の運用と文化財の保存」

藤元秀樹（広島電鉄株式会社）「路面電車の整備保存について」

宮崎輝昭（熊本市交通局）「熊本市電の歴史と現況」

遠藤徳保（東京都交通局）「7504号車復色プロジェクト～だるま会～復色作業の取り組みから都電おもいで
広場の開設まで」

質疑応答より

編集後記

『保存処置後のモニタリング』（②セ01の一環として実施）

この報告書は、第21回国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。（2008年3月発行）

清水真一「序」

朽津信明「開会挨拶・趣旨説明—遺跡の保存処置後のモニタリング—」

1 講演と質疑応答

西浦忠輝（国土舘大学）

「遺跡保存におけるモニタリングの重要性とその問題点」

ナハール・チャヤンダル（ポロブドゥール遺産保存研究所）

「ポロブドゥール遺跡の修復後のモニタリング」

金思憲（韓国国立文化財研究所）「石窟庵の長期的保存方案」

2 総合討議と総括

総合討議

朽津信明「研究会総括」

発表者紹介

参加者名簿



『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究—平成19年度成果報告書』(②セ02の一環として実施)

この報告書は、「アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究」による平成19年度分の成果をまとめたものである(2008年3月発行)。

1. 研究費及び研究組織
2. 研究概要
3. 研究成果
4. 資料



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2007』(②セ04の一環として実施)

本報告は、平成18年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第5期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」(5年間)の第2年目活動内容の概略を示すものである。

1. 岡田健「はじめに」
2. 岡田健、蘇伯民、高林弘実「2007年度活動概要」
3. 2007年日中共同調査の調査報告
 - 3.1. 舩井基充、柴勃隆、王小偉「第285窟壁画の光学調査」
 - 3.2. 大場詩野子、大竹秀実、柴勃隆、毛嘉民「敦煌莫高窟第285窟壁画の状態調査」
 - 3.3. 高林弘実、李燕飛、柴勃隆、毛嘉民、范宇権「顕微鏡による第285窟壁画の表面観察」
 - 3.4. 高林弘実、趙林毅、李燕飛、于宗仁、范宇権「携帯型蛍光X線分析による第285窟壁画に使用された色料の同定」
 - 3.5. 小瀬戸恵美、趙林毅、于宗仁、李燕飛、范宇権「敦煌莫高窟第285窟壁画顔料のラマン分光法による測定」
 - 3.6. 高林弘実、中村俊夫、郭青林、岡田健「莫高窟初期窟の放射性炭素年代」
 - 3.7. 谷口陽子、趙林毅、李燕飛、齋藤努、范宇権、于宗仁「鉛同位体比分析による鉛系顔料(鉛丹・鉛白)の産地推定への試み(2):データの解析と試料の採取の継続」
 - 3.8. 芹生春菜、柴勃隆、舩井基充、高林弘実、王小偉「敦煌莫高窟第285窟北壁銘文について—第4区を中心に—」
 - 3.9. 王小偉、柴勃隆、范宇権、舩井基充、高林弘実、谷口陽子「莫高窟第272窟、第275窟の部分壁画の光学調査」
4. 敦煌研究院保護研究所研究員の来日研修
5. 岡田健、樊再軒「日本人若手研修」
6. 高林弘実「敦煌研究院来日研修」
7. 蘇伯民「総括」

関連業績



⑥刊行物 Area17

⑥刊行物 Area17